

スギトゴト

2023

5月号

「杉戸の職人」と聞いて、何人の顔が思い浮かぶだろう。よく行く店の店主や取引先など、私たちが日常的に関わることでできる仕事相手は、実はそれほど多くない。けれど、町をつくっているのはまぎれもなく人であり、もっと言えば誰かの仕事だ。代々受け継がれてきた技術、町の産業に着目して立ち上がったブランド、「地元で独立したい」と起業した人々……。知れば思わず自慢したくなる、この町の仕事人たちを紹介しよう。

今月の仕事人

フレッシュやおいち

＼ 未来につなぐ杉戸のコト ／

何気なく通りすぎている町の景色に息づく物語。現在進行形で生まれているワクワクするような出来事たち。「スギトゴト」は、日常に存在する素敵な「杉戸事（スギトゴト）」を紹介する小さな情報誌です。杉戸ゴトが一人ひとりの自分ゴトとつながって、未来の新しい「スギトゴト」を生み出していく。そのきっかけをつくりたいという思いで発信していきます。

私の相棒

フレッシュやおいち編

若き店主を支えたのは 額に掲げた「ナンバープレート」

限られた資金をやり繰りし、いかにいい商品を手に入れるか。病気の父親に代わり、二十歳で一家の大黒柱となった福澤孝一さんが、事業を成すための生命線は市場での仕入れだった。額に掲げたナンバープレートは、半世紀をともにした相棒だ。



ふくざわ こういち
福澤 孝一 さん
1955 年生まれ 杉戸町出身

「フレッシュやおいち」三代目店主。
乾物屋として始まった初代・祖父の時代から、地元で生まれ育ち、駅前通りの移り変わりをずっと見てきたひとり。

駅前通りは 青果店の激戦区

東武動物公園駅東口駅前通り。バスや車が歩道すれすれを行き交うこの通りは、かつてにぎやかな商店街で、多くの青果店が並んでいたという。その中で、現在も営業を続けているのはわずか2軒。旧日光街道との交差点に建つ「フレッシュやおいち」は、そのひとつだ。

ところが、二十歳の頃に父が倒れ、介護が必要な状況になってしまった。まだ妹が高校生で、弟が中学生の時だった。「長男の私が家を支えるしかありませんでした」。こうして福澤さんは稼業を継ぎ、青果専門店「フレッシュやおいち」として独立することになった。

「正直なところ、この場所ではやりたくなかったんですよ。それもそのはず、周囲には同業者が10軒以上。若手の福澤さんが入り込む余地はなかった。新顔なので卸売市場での仕入れも思うようにいかない。それでも、事業者番号が記された「ナンバープレート」の帽子をかぶり、必死に買い付けを行った。

このプレートは、持っている者だけが市場への出入りを許される、父から受け継いだ信頼の証なのだ。

父から子へと 受け継がれるもの

やがて移動販売に活路を見出した福澤さん。店を切り盛りして約半世紀が過ぎた。時代とともに顧客のニーズや買い物の仕方にも変化が訪れる。交通量が多い駅前通りは車での来店が難しく、この場所での営業は「そろそろ潮時かも」と福澤さんは感じていた。加えて、通りの再開発計画により、フレッシュやおいちはセットバックを余儀なくされる。「子どもたちも単立ったし、60歳で引退するつもりでした」。ところが、息子夫婦が後を継ぎたいと言ってくれたので、それならしい形で渡せるようにしたい、と新たな展開を考えるように。

そんな矢先、コロナ禍が店を襲う。対面での販売が全くできない状況が続き、売上は低迷。



三世代に託されたナンバープレートを付ける孝一さん（右）と息子の潤さん（左）。



役場での移動販売に、次々とお客さんが集まる。

毎週月曜日 12:00 ~
杉戸町役場前で開催中



しっとり甘くておいしい、軒先の焼き芋は店の看板商品。通る人たちを香りで包む。



フレッシュなのは、店頭で働く人たちの笑顔——一人ひとりがこの仕事を楽しみ、誇りを持っている。

フレッシュやおいち

- 📍 杉戸町杉戸 3-1-9
- ☎ 0480-32-0076
- 🕒 9:30-13:00
- 📅 日曜・祝日定休
- 🅐 駐車場あり(1 台)

